
魚の目と鬼の眼

Lloyd

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魚の目と鬼の眼

【Nコード】

N4948M

【作者名】

Lloyd

【あらすじ】

少女の死を追いかける学園推理小説。

夕方にもなると昨夜から降り積もった雪も完全に解け窓の外からは無数の水溜りや、ぬかるんだグラウンドが見える。

下校前、自分の下駄箱に入っていた手紙の主に会うため友人の麻^あ美^{さみ}には先に帰ってもらい、予め手紙の主から指定された一学年上の誰もいない教室に来ていた。

日も傾きかけ生徒のいない教室では暖房器具も点火されてない。

「……寒い」

少女はスカートのポケットから使い捨てのカイロを取り出し頬に当てた。

暫く待っていると教壇側の扉が、ゆっくりスライドし開く。

「やあ、待たせてごめん」

「君が来てくれて本当に嬉しいよ」

男は教室に入りそう少女に言った。

「やっぱり……」

少女は俯きながら、そう呟き次の言葉を出そうと顔を上げたした途端。

「う、うぐっ……」

苦しい。

呼吸が出来ない。

声が出ない。

声を出すことも出来ない。

頭の中がパニックになりながらも今の状態を把握する。

「君の答えなんか聞かなくても分かるんだよ」

男が両手で力の限り少女の首を絞めているのである。

少女も自分の首に掛かった男の両手を振り解こうと必死に抵抗するが力の差は歴然だった。

「……ちがう」

少女は最後の言葉を残し動かなくなった。

抵抗しなくなった少女を確認すると男は両手を首から放した。

同時に少女の体は糸を無くしたマリオネットの様に、その場に崩れ落ちた。

少女の瞳は光を失った。

これからその瞳に映すことは無い。

少女が最後に流した赤く滲んだ涙だけが、その場で輝いていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4948m/>

魚の目と鬼の眼

2010年10月10日20時08分発行